

生活クラブは 地域ごとに自立した 活動を行なっています

21都道府県にある33の生活クラブ生協と、
生活クラブ共済連とで、
生活クラブ連合会を構成しています。
組合員数は約42万人。さらに、牛乳工場や運送など
関連・関係団体が各地にあります。
地域ごとにそれぞれの生活クラブが、
自立した運営と活動を行なっています。

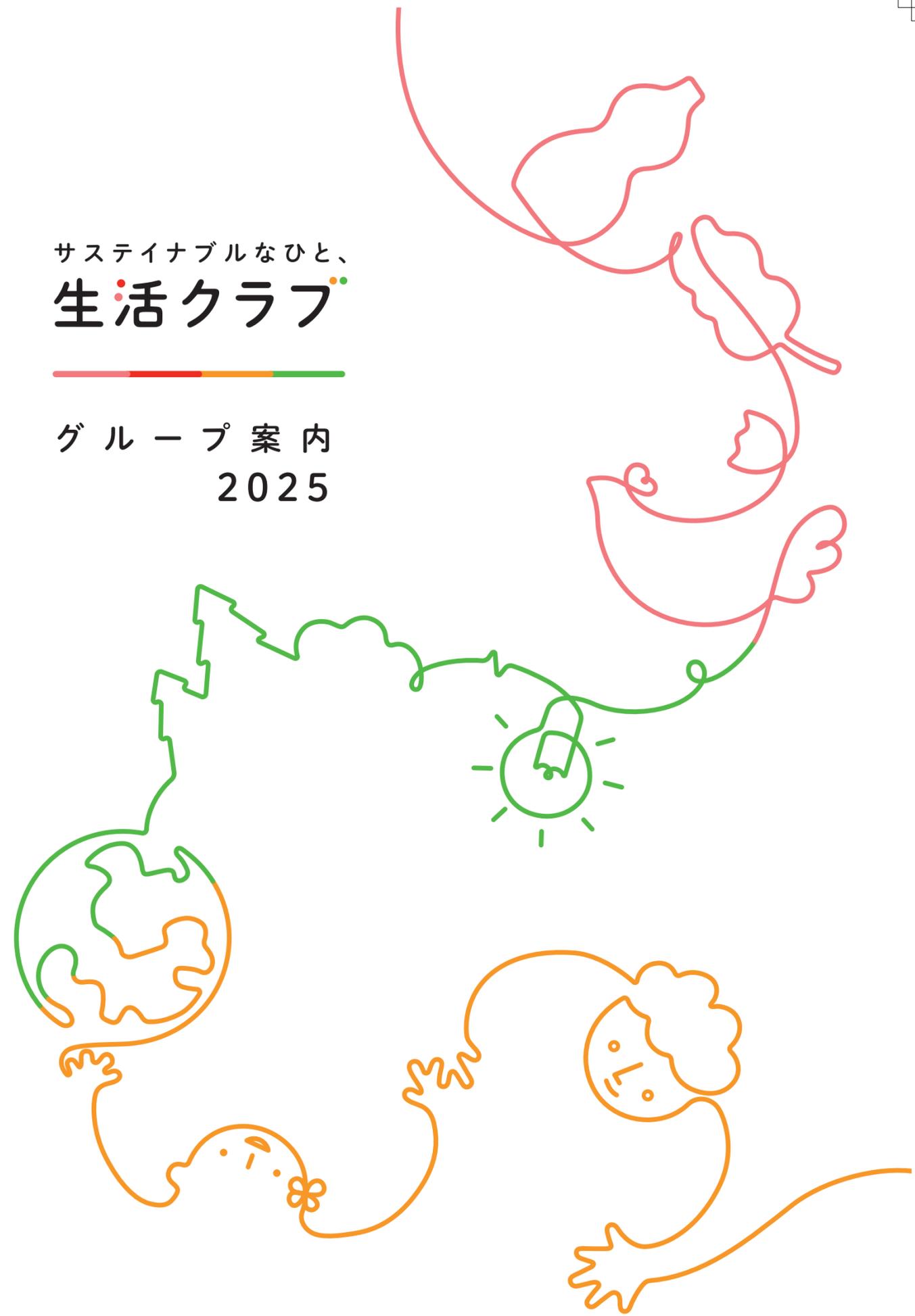


- ① 生活クラブ(北海道)
- ② 生活クラブ(青森県)
- ③ 生活クラブ(岩手県)
- ④ 生活クラブやまがた(山形県)
- ⑤ 生活クラブふくしま(福島県)
- ⑥ 生活クラブ(茨城県)
- ⑦ 生活クラブ(栃木県)
- ⑧ 生活クラブ(群馬県)
- ⑨ 生活クラブ(埼玉県)
*お店(デポ)3店舗あります。
- ⑩ 生活クラブ(千葉県)
*お店(デポ)9店舗あります。
- ⑪ 生活クラブ(東京都)
⑫ 23区南生活クラブ ⑬ 北東京生活クラブ
⑭ 多摩きた生活クラブ ⑮ 多摩南生活クラブ
*お店(デポ)10店舗あります。
- ⑯ 生活クラブ(神奈川県)
⑰ 横浜北生活クラブ ⑱ 横浜みなみ生活クラブ
⑲ かわさき生活クラブ ⑳ 湘南生活クラブ
㉑ さがみ生活クラブ
*お店(デポ)22店舗あります。

- ⑲ 生活クラブ大阪(大阪府)
- ⑳ エスコープ大阪(大阪府)
- ㉑ 生活クラブ都市生活(兵庫県)
- ㉒ 生活クラブ(奈良県)
- ㉓ 生活クラブ庄内(山形県)
- ㉔ 生活クラブ共済連
- ㉕ 福祉クラブ(神奈川県)
- ㉖ 生活クラブ(長野県)
- ㉗ 生活クラブ(山梨県)
- ㉘ 生活クラブ(静岡県)
- ㉙ 生活クラブ(愛知県)
- ㉚ 生活クラブ(滋賀県)
- ㉛ 生活クラブ京都エル・コープ(京都府)

サステイナブルなひと、 生活クラブ

グループ案内 2025



生活クラブ 2030 行動宣言

2030年に向けて優先的に取り組むべき11の重要目標を、「生活クラブ2030行動宣言」で掲げています。組合員や生産者など生活クラブに関わるみんなで、SDGsの理念と通じ、さらにその先をつくる活動をすすめています。



かわいい内容は
公式WEBサイトで
紹介しています



生活宣言

ブランド・ステイメント

生活することは、未来をつくること。

私たちが、何を選択し、どのように生産し消費するか、という生活のかたちは、子どもたちの未来へとつながっています。

だから、私たちは「サステイナブル(持続可能)な生活」を選びます。

消費者と生産者が「生活する者」として手をとりあい、食べもの、エネルギー、たすけあい・福祉のしくみを自給・循環させていきます。

つながりを深めて身近な地域を豊かにし、結びつきを大きくひろげます。共生と非戦の立場を貫き、すべての活動をすすめます。



つくる、つかう、食べる、手渡す。

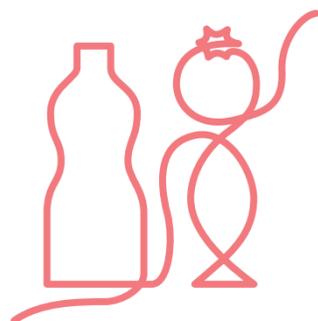
つながるローカルSDGs

生活クラブでは、持続可能な社会づくりをめざし「つながるローカルSDGs」をすすめています。それぞれの地域が持つ再生可能な資源(自然、物質、人材、資金等)を循環させて有効に活用し、地域と地域が補完しあうことで、お互いの活力を最大に生かし、サステイナブルな社会を形成していく構想です。



Food

食べもの



原材料やつくり方、価格とすべてが 明らかな食べものを

生活クラブでは生活に必要な食べものを組合員と生産者が一緒になって開発し、みんなで利用しています。このように開発した品物は、利益を得ることを目的とした商品でないことから「消費材」と呼んでいます。また食べもののみならず、その容器や包材、生活用品についても安全性の追求や廃棄物の削減に取り組んでいます。

生活クラブの消費材10原則

- 第1原則 安全性を追求します
- 第2原則 遺伝子操作された原材料は受け入れません
- 第3原則 国内の自給力を高めます
- 第4原則 公正で責任ある原材料の調達をめざします
- 第5原則 素材本来の味を大切にします
- 第6原則 有害化学物質を削減します
- 第7原則 3Rを推進し、さらなる資源循環をすすめます
- 第8原則 温室効果ガスの排出削減をすすめます
- 第9原則 積極的に情報を開示します
- 第10原則 独自基準を定め、自主的な管理をすすめます

遺伝子組み換え対策

疑わしきものは使わない

生活クラブは1997年に「遺伝子組み換え作物・食品は取り扱わないことを基本とする」「やむを得ず使用する場合は、情報を公開して取り組む」ことを決定しました。注文カタログでは遺伝子組み換え対策を表示しています。



微量原料も含め遺伝子組み換え作物は原料に使っていません。



GM混入防止管理済。微量原料も含め遺伝子組み換えの混入を防ぐための分別をしています。

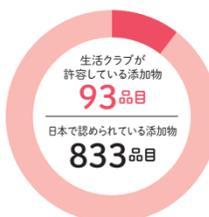


主要原材料では遺伝子組み換えの混入を防ぐための分別をしています。酸化防止剤(ビタミンEやビタミンC)、香料の抽出に使用されるアルコールなどで、分別されていない原材料を使っています。

食品添加物

不要なものを使用しない

生活クラブは「不要なものは使用しない」「使用したものは情報を開示する」を基本に、食品添加物を制限してきました。国が使用を認めた食品添加物833品目のうち、1/10程度の93品目にまで削減しています。(2024年3月現在)



※日本で使用が認められている食品添加物には、「指定添加物」「既存添加物」「天然香料」「一般飲食物添加物」があります。上記の833品目と93品目(表示義務のない添加物及び粉ミルクの栄養素は除く)は、「指定添加物」「既存添加物」のことを指します。

※2024年3月現在

放射能対策

これ以下なら安全という値は存在しない

生活クラブは「放射能が健康へ与える影響にしきい値はない」という考え方にに基づき、放射能の自主基準値を設定しています。特に子育てを応援する「すくすくカタログ」で取り扱う食品は、すべて「不検出」を自主基準値としています。ゲルマニウム半導体検出器など6台の放射能測定器で徹底した放射能検査を行ない、検査結果はすべてWEBで公開。自主基準値を超える食品は供給しません。

「持続可能な生産と消費」推進制度 消費材をよりよくするしくみ

生活クラブでは組合員と生産者が話しあって、農業や加工食品、放射能など消費材をつくるためのさまざまな自主基準を定めています。そして組合員による生産現場の点検(消費材Step Up点検)などによって、自主基準への到達度合を組合員と生産者で点検しあいながら、消費材の品質向上をはかっています。



組合員が提携生産者の工場を点検

フェアトレード 海外産地と提携・連帯

国内生産が困難な食べものは海外産地と提携を結ぶとともに、外国産原材料の自主基準を設けてトレーサビリティを高めています。ベトナム産ブラックペッパーやコーヒー粉、パラゴンバナナ、ファーマーズシュリンプなどを適正な価格で購入することで、品質向上と現地社会への貢献の両立をめざしています。また組合員が産地を訪れ、生産者と交流を深めています。



なたね油の原料となるナタネの生産者の元を訪問(オーストラリア)

ビオサポ® 食べもの×食べ方で健康な食生活をサポート

生活クラブは食べものの安全性のみならず、健康な体づくりのために欠かせない「食べ方」についても積極的に提案。栄養知識や調理技術などを注文カタログやWEBに掲載しています。また、旬の食材の活用法や食材の保存法など、賢い食材の使いこなし術を紹介しています。

※「ビオサポ」は生命を意味する「BIO」と「美を」を掛け、生命力にあふれた健康的な食生活をサポートしていくという意味の生活クラブの造語です



生活クラブのミールキット「ビオサポ食材セット」

復興支援 組合員の力を集め被災地を支援

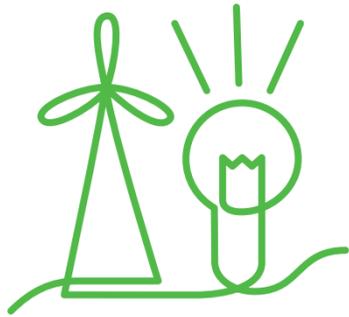
自然災害からの復興には、息の長い支援が必要です。生活クラブは被災した生産者の消費材の利用を高めることで支援を続けています。また、組合員によるカンパを活用した支援も行なっています。東日本大震災で被災した子供たちの甲状腺検査活動を、10年以上にわたって継続。2024年に発生した能登半島地震の被災地や、豪雨災害の被害を受けた山形県庄内地域へは、緊急支援物資の提供などを行ないました。



山形県庄内地域の豪雨災害の支援では、130名を超える組合員・職員が、がれきりや土砂の撤去作業をしました

Energy

エネルギー



再生可能エネルギーの共同購入で 原発のない社会を

エネルギーの選択は生き方を選ぶこと。生活クラブではエネルギーの使用を「減らす」、再生可能エネルギーを「つくる」、「使う」を柱に原発のない社会づくりにむけての歩みをすすめています。

生活クラブのエネルギー7原則

- 1 省エネルギーを柱とします。
- 2 原発のない社会、CO₂を減らせる社会をつくります。
- 3 地域への貢献と自然環境に留意した発電事業をすすめます。
- 4 電気の価格や送配電のしくみを明らかにします。
- 5 生活クラブの提携産地との連携を深め、エネルギー自給率を高めます。
- 6 エシカルコンシューマー※として、再生可能エネルギーによる電気を積極的に共同購入します。
- 7 生産から廃棄までトータルで責任を持ちます。

※エシカルコンシューマーとは、「環境や社会に配慮した商品・サービスを選択し、購入・利用するなどの消費行動を通じて、社会的な課題の解決に寄与していこう」という意思を持った消費者のことで、エコロジーやグリーンなどをさらにすすめた「倫理的・道徳的な消費活動」に取り組む人々をいいます。

CO₂排出量の削減

エネルギーの使用を減らす

生活クラブでは、2050年に生協事業によるCO₂排出をゼロにすることを目標に、2030年には45%（2013年比）削減をめざしています。消費材の容器は、洗浄して繰り返し使う「リユースびん」を採用し、容器をつくるエネルギーを減らしています。牛乳キャップや消費材のピッキング袋もリサイクル原料として活用しています。このような容器包装ごみを減らす取組みを「グリーンシステム」と呼んでいます。



創エネ

再生可能エネルギーをつくる

生活クラブは原発のない社会をめざして、再生可能エネルギーを自らつくり出すため、風力発電施設や環境に配慮し、地域での合意のもと営農型ソーラーシェアリングの建設、配送センターやデポー（店舗）などの関連施設に太陽光発電設備の設置をすすめています。また、生産者や市民団体と協力して小水力、バイオマスなどの電源開発にも積極的に取り組んでいます。



① 生活クラブ風車「夢風」
② 庄内・遊佐太陽光発電所
③ 阿寒バイオマス発電

電気の共同購入

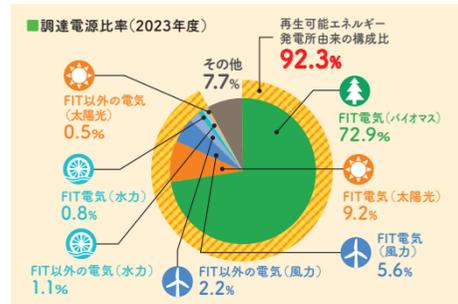
再生可能エネルギーを使う

電力を供給・販売する事業を行なう（株）生活クラブエナジーを通じて、再生可能エネルギーが中心の「生活クラブでんき」を共同購入しています。太陽光や風力など調達電源種別の実績は、毎月の電気料金明細書やWEBサイトで明らかにします。電気料金の契約メニューも組合員とともに作ります。また、任意で毎月の電気料金の5%を寄付する「生活クラブ自然エネルギー基金」を設け、再生可能エネルギーの開発や省エネルギー活動などに活用しています。



生活クラブ
でんき

2023年度の調達電源種別



Care

福祉



豊かな人間関係が息づく 参加型の福祉とたすけあい

希望のある持続可能な社会とは、豊かな人間関係が息づいている社会だと生活クラブは考えます。年をとっても障がいがあっても、どんな状況にあっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、生活クラブは社会福祉法人やワーカーズ・コレクティブ、NPOなどと連携して多様なたすけあいのしくみをつくっています。

生活クラブの福祉・たすけあい8原則

- 1 多様性 ……一人ひとりがちがいを認めあひながら、対等につながり、よこびを分かちあえる社会をめざします。
- 2 尊厳の尊重 ……生まれた時から最期の日まで、誰もがその人らしく安心して暮らせる地域をつくります。
- 3 参加型社会 ……子育て、介護、社会的孤立を地域全体の課題と考え、お互いにたすけあ参加型のしくみをつくります。
- 4 働きがいのある人間らしい仕事 ……生活と仕事が調和し、社会を豊かにする多様な働き方・働く場をつくります。
- 5 居場所づくり・役割づくり ……あらゆる人が、心おだやかに楽しく過ごせる居場所づくり・役割づくりをすすめます。
- 6 子育て支援 ……子どもが笑顔で暮らせるように、地域全体で、子ども支援・親支援に取り組みます。
- 7 介護支援 ……介護する人・受ける人がどちらも、安心して毎日を過ごせるようサポートします。
- 8 社会的孤立への支援 ……貧困と孤立を見逃さず、寄り添い、伴走することで自立を後押しします。

高齢者・子育て・障がい者支援

生活クラブは、さまざまなしくみでたすけあいの輪を広げています。地域に根づいた福祉ケアを実施する「高齢者支援」や、ひろばや保育園など、子どもたちの個性や成長にあわせた支援を地域ぐるみで行なう「子育て支援」。さらに、病気や障がいをもった方が、生活上必要な支援を受けながら、地域社会の中で暮らすことをめざす「障がい者支援」があります。



生活困窮者自立支援

生活に困窮する人をなくしたい

働かなくても働けない、住むところがないなど、生活に困難を抱えた人々を地域社会の力で支える事業に取り組んでいます。東京や千葉では、自治体からの受託で自立支援事業や家計相談事業、相談貸付事業等も行なっています。2024年からは生活クラブフードバンクの新しいしくみ「おふくわけ」がスタート。組合員が注文した消費材を、地域で食支援の活動をしている団体に届けています。

共済とエコロ制度

必要な保障を自分たちでつくる

「安心を人まかせにしない」「自分たちに必要な保障内容を自分たちでつくり、かえる」という考えのもと、「生活クラブ共済ハグくみ」を開発。さらに、組合員どうしがたすけあう「CO・OP共済」にも取り組んでいます。また、生活クラブには日常の困りごとや共同購入品の盗難、組合員活動中のケガなどを保障する、「エコロ制度」というしくみがあります。



生活クラブ共済のイメージキャラクター「ハグみちゃん」



CO・OP共済のキャラクター「コーすけ」



手を差しのべ、たすけあう想いを込めた「エコロマーク」

Work

働く



年齢や性別に関わらず 誰もが働きやすい社会へ

一人ひとりが経営者であり、労働者として事業に関わる「ワーカーズ・コレクティブ」を推進しています。

雇い・雇われる関係ではなく、働く人自身が必要な資金を出しあい、ともに働く場をつくる「ワーカーズ・コレクティブ」で、自立的な働き方を実践。生活クラブの業務委託や弁当・惣菜、パンの製造販売、介護・子育てなど地域に必要な仕事を各地の組合員を中心につくらせています。



生活クラブのあゆみ

- 1965 (年度) ▶「生活クラブ」結成。牛乳の共同購入をはじめ
- 1968 ▶生活クラブ生協創立。「班別予約共同購入」スタート
- 1971 ▶「生活と自治」を機関紙として発刊(81年から情報誌として組合員個人払い制に)
- 1972 ▶生活クラブのオリジナル消費材第1号「信州みそ」を開発 ▶山形県遊佐町農協と米の提携生産スタート ▶平田牧場と日本初の無添加ポークウインナー開発に取り組む
- 1974 ▶組合員の自主管理による豚肉の産直スタート
- 1977 ▶提携生産者の団体「生活クラブ親生会」発足 ▶合成洗剤の取り扱いをやめ、せっけん利用運動を本格化
- 1979 ▶日本の生協で初めての直営牛乳工場が千葉に完成
- 1981 ▶生活クラブ運動のシンクタンク「社会運動研究センター」設立(96年に「市民セクター政策機構」へ改組)
- 1982 ▶生活クラブのお店「デポー」第1号、神奈川で開設
- ▶初のワーカーズ・コレクティブ設立
- 1984 ▶東京で個人宅配(個別配送システム)開始
- 1986 ▶チェルノブイリ原発事故。放射能の基準を国の10分の1に設定し、お茶を出荷停止に ▶組合員どうしのたすけあい「エココロ制度」発足
- 1987 ▶初のデイサービスセンター「生活リハビリクラブ」が神奈川に誕生
- 1988 ▶牛肉・オレンジ輸入自由化を契機に牛乳の殺菌温度変更を討議、72℃15秒間殺菌のパスチャライズド牛乳の開発・取組みへ
- 1989 ▶「もう一つのノーベル賞」と呼ばれる「ライトライブリッド・アワード(RLA)名誉賞」受賞
- 1990 ▶生活クラブ事業連合生活協同組合連合会設立
- 1993 ▶冷害による米パニック。産地との連携で乗り切り、その後、共同開発米基金設立へ
- 1994 ▶びんを再使用する「グリーンシステム」スタート
- 1995 ▶国連設立50周年記念「国連の友」による「われら人間:50のコミュニティ賞」受賞
- 1997 ▶遺伝子組み換え作物・食品(GMO)の不使用原則を確認 ▶「自主管理・監査制度」がスタート
- 1999 ▶超軽量牛乳びんを開発。グッドデザイン賞など多数受賞 ▶容器包材の環境ホルモン対策をすすめる ▶韓国の「女性民友会生協」、台湾の「主婦連盟生協」と三者姉妹提携を調印
- 2000 ▶「ストップ! GMO宣言」統一キャンペーン活動を実施
- 2001 ▶事業認可を得て共済事業スタート ▶北海道で「市民風車(風力による市民共同発電所)」第1号が完成
- 2002 ▶「ストップ! 遺伝子組み換えイネ生協ネットワーク」の活動により、GMイネ商品化阻止
- 2004 ▶飼料用米を食べて育った豚肉「米育ち豚」の取組みスタート ▶国産鶏種「はりま」を導入
- 2006 ▶グリーンピース・ジャパンの「トゥルーフード特別賞」受賞

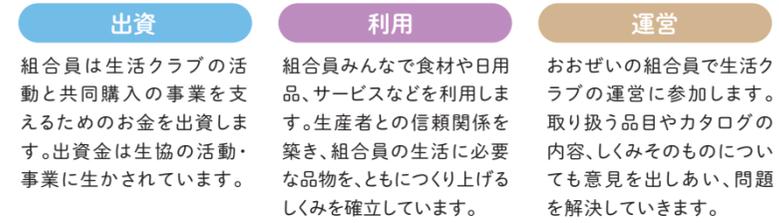


- 2007 ▶リユースびんの活動(びん再利用ネットワーク)が「容器包装3R推進環境大臣賞」受賞
- 2008 ▶生産への労働参画プロジェクト「夢都里路(ゆとりろ)くらぶ」発足
- 2009 ▶「Food Action Nippon アワード2009優秀賞」受賞 ▶生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会(生活クラブ共済連)設立
- 2011 ▶3.11東日本大震災、支援活動始まる。9月より、徹底した放射能検査始まる ▶秋田県にかほ市に生活クラブ風車建設
- 2012 ▶8月に放射能の自主基準を設定
- 2013 ▶生活クラブ共済「ハグくみ」誕生
- 2014 ▶生活クラブの健康な食デザイン「ピオサポ」スタート ▶環境にやさしい電気の共同購入をめざし(株)生活クラブエナジーを設立
- 2015 ▶生活宣言(ブランド・ステイメント)と10のThink&Act決定 ▶ロゴタイプ、スローガンをリニューアル
- ▶注文カタログリニューアル。加工食品の原材料を掲載 ▶包材デザインリニューアル ▶よやくらぶスタート ▶「生活クラブのエネルギー7原則」を決定 ▶生活クラブ安心システム連合設立
- 2016 ▶電気の共同購入スタート
- ▶長野県塩尻市と包括連携協定を締結 ▶韓国「幸福中心生協」、台湾「主婦連盟生協」と三者姉妹提携を再調印 ▶生活クラブ連合憲章決定 ▶「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を決定 ▶生活クラブ自然エネルギー基金の活用開始 ▶「生活クラブの消費材10原則」を決定 自主管理監査制度を「持続可能な生産と消費」推進制度へリニューアル ▶「第6回グッドライフアワード 環境大臣賞 NPO・任意団体部門」受賞 ▶生協法制定70周年 厚生労働大臣表彰 ▶ゲノム編集食品を受け入れないことを基本姿勢とする特別決議
- ▶庄内・遊佐太陽発電所が稼働
- 2020 ▶「生活クラブ2030行動宣言」を決議 ▶気候危機宣言を発表
- 2021 ▶「第6次エネルギー基本計画」改定に向け「未来へつなげるエネルギーアクション」を推進。署名274,830筆提出
- 2022 ▶「生活クラブ2030行動宣言」の重要目標を11に増やすことを決議 ▶「つながるローカルSDGs」をテーマにしたしくみづくりをスタート ▶「エネルギー事業連合」を設立 ▶「第10回グッドライフアワード 環境大臣賞 優秀賞」受賞
- 2023 ▶山形県酒田市に移住・交流拠点「TOCHiTO」開設 ▶「第1回ソトコト・ウェルビーイングアワード2023」受賞
- 2024 ▶組合員開発の冷凍おにぎり「こむすびちゃん」が「ぎゅってベストサポーター大賞2024 子どもニコニコ部門銀賞」受賞



生活クラブのしくみ

生活クラブは生協です。営利を第一の目的とする一般の企業とは異なり、組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。



生活クラブ連合会の概要

生活クラブ連合会は主として、消費材の開発と管理、検査活動、物流、システム管理を行なっています。また、これに伴い、共同購入のための申込情報紙や広報物の発行、さらにグループ全体が協同して取り組む課題について、会員単協の組合員や職員による各種委員会やプロジェクト等を設置し、その執行に尽力しています。

設立	1990年3月12日
名称	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿6-24-20 KDX新宿6丁目ビル 5F
連絡先	TEL:03-5285-1771(代表・総務部) FAX:03-5285-1837
代表者	会長:村上彰一 専務理事:柳下信宏 (2025年4月現在)
事務所	新宿事務所 〒160-0022 東京都新宿区新宿6-24-20 KDX新宿6丁目ビル 5F・6F・7F 飯能デリバリーセンター 〒357-0012 埼玉県飯能市下川崎34 TEL 042-983-8000 検査室 〒337-0004 埼玉県さいたま市見沼区卸町1-18 2F TEL 048-682-3500
会員生協(33生協1連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ●生活クラブ東京 ●多摩南生活クラブ ●かわさき生活クラブ ●生活クラブ埼玉 ●生活クラブ茨城 ●生活クラブ愛知 ●生活クラブ群馬 ●生活クラブ奈良 ●生活クラブ庄内 ●23区南生活クラブ ●生活クラブ神奈川 ●湘南生活クラブ ●生活クラブ千葉 ●生活クラブ山梨 ●生活クラブ栃木 ●生活クラブふくしま ●生活クラブ滋賀 ●生活クラブ共済連 ●北東京生活クラブ ●横浜みなみ生活クラブ ●さがみ生活クラブ ●生活クラブ長野 ●生活クラブ岩手 ●生活クラブ青森 ●生活クラブ大阪 ●エスコープ大阪 ●多摩きた生活クラブ ●横浜北生活クラブ ●福祉クラブ ●生活クラブ北海道 ●生活クラブ静岡 ●生活クラブやまがた ●生活クラブ京都エル・コープ ●生活クラブ都市生活

連合会WEBサイト



生活クラブ共済連の概要

生活クラブ共済連は独自共済の「生活クラブ共済ハグくみ」や「CO・OP共済(コープ共済連との共同引受)」など、組合員どうしのたすけあいのしくみである共済事業をすすめています。また保険代理事業のほか、会員単協の福祉活動支援や情報交換の場づくり、ライフプラン講座などの教育事業を行なっています。

設立	2009年12月1日
名称	生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿6-24-20 KDX新宿6丁目ビル B1F
連絡先	TEL:03-5285-1865(代表) FAX:03-5285-1864
代表者	会長:村上彰一 専務理事:石井康久 (2025年4月現在)

共済連WEBサイト

